

## 令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・基礎的な知識を確実に定着させるため、単元ごとに確認テストを行い、つまづいている生徒への補習を行った。
- ・社会科に対する興味関心を高めるため、ICTや新聞記事などの教材を活用し、考えさせる時間を多く設け、学習内容に対する興味・関心を引き出す授業展開を目指した。

#### (2) 課題

- ・全学年習熟度の差が大きく、家庭学習の習慣化ができていないため、知識が定着していない。
- ・習得した知識・技能を活用し、自ら考えたり表現したりする力に課題がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	知識技能に関しては、ばらつきはあるが、区平均正答率と差はない。しかし思考・判断・表現の数值は区平均正答率を下回っている。	/	/
第2学年	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。前年度と比べて全ての観点の数值が上昇しており、授業改善の成果が若干見られる。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。  (第1学年時)	/
第3学年	全ての観点で区平均正答率を下回っている。前年度の校内平均正答率と比べて「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の数值が上昇している。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。しかし、前年度と比べて思考・判断・表現の数值は上昇しており、授業改善の成果が若干見られる。(第2学年時)	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。  (第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識・理解」の項目は他の評価項目と比較して高いことから、資料の読み取りの活動等で得た学びを「知識」として比較的定着できている状況があると考えられる。しかし、習熟度の個人差が大きく、基礎的な内容を確実に定着させる課題を定期的に行うなど、個に応じた指導をさらに展開していくことも必要である。	数值が低いことから、資料の読み取り活動や話し合い活動など授業内で考えさせる時間を多く取りながら授業改善を行っていく。今後も継続して、社会的事象を多面的・多角的に読み取る指導を行っていく。	「社会科に対する関心・意欲・態度」に関しては区平均正答率を下回るが、おおむね目標値に近い値である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能の項目に関しては、区平均正答率を下回るが、地理的分野に関しては、おおむね目標値に近い値である。今後も継続して単元テストを行い、知識を習得するための取り組みを行っていく。	思考・判断・表現の項目に関しては、区平均正答率を下回るが、おおむね目標値に近い値である。今後も、資料の読み取り活動や話し合い活動を実践していく。	主体的に学習に取り組む態度の項目に関しては、区平均正答率を下回っているが、前年度の校内平均正答率と比較すると、上昇している。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度の校内平均正答率と比べても、「知識・技能」の数値は若干下がっている。繰り返し学習のさらなる強化が必要である。	前年度の校内平均正答率と比べると、「思考・判断・表現」の数値は上昇している。授業改善の成果が若干見られる。	前年度の校内平均正答率と比べると、「主体的に学習に取り組む態度」の数値は上昇している。授業改善の成果が若干見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト・ワークシートの作業を継続的に行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。単元ごとの振り返り、まとめの時間を確保し、習得した知識を活用する場面を継続的に設定することで知識の確実な習得と活用を機会を設けていく。	毎単元、「本時の課題」を提示し、学習した内容から考察した自分の考えを表現することで、習得した知識・技能を活かした思考・判断・表現力の向上を図る。	単元評価シートを活用。大單元ごとに「単元を貫く学習課題」を設定、第1時で予想を立てさせ、大単元の最後に振り返りを行い、結果と考察を踏まえたまとめを行い、学習の成果を考察する機会を設けていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートなどを用いた資料の読み取りなどの作業に、これまで以上に時間をかけて、資料活用に慣れさせることが大切である。単元ごとの振り返り、まとめの時間を確保し、習得した知識を活用する場面を継続的に設定することで知識・技能の確実な習得と活用を機会を設けていく。	各小單元に応じた疑問を提示し、複数の資料から読み取れる予想や自分の考えを事前に記述させることで社会的事象を幅広く考察していく基盤を養う。また、自らの意見を伝え、他者の意見に触れる機会を充実させる。	単元評価シートを活用。大單元ごとに「単元を貫く学習課題」を設定、第1時で予想を立てさせ、大単元の最後に振り返りを行い、結果と考察を踏まえたまとめを行い、学習の成果を考察する機会を設けていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習習慣を定着させるために、副教材のワークブックなどにくりかえし取り組ませる。そのことによって、基礎的な知識のさらなる定着を図っていく。	統計資料などの読み取りの時間を、これからも授業内でできるだけ取るように努める。読み取った内容をノートにまとめさせるなどして、生徒の思考をさらに深める指導を進めていく。	単元の節目で副教材を使って、学習の成果をふりかえる指導を行う。